

令和3年度

中河内二次医療圏 「地域医療構想」の進捗状況

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコールフットイングで
病床機能分化の議論を進める

Contents

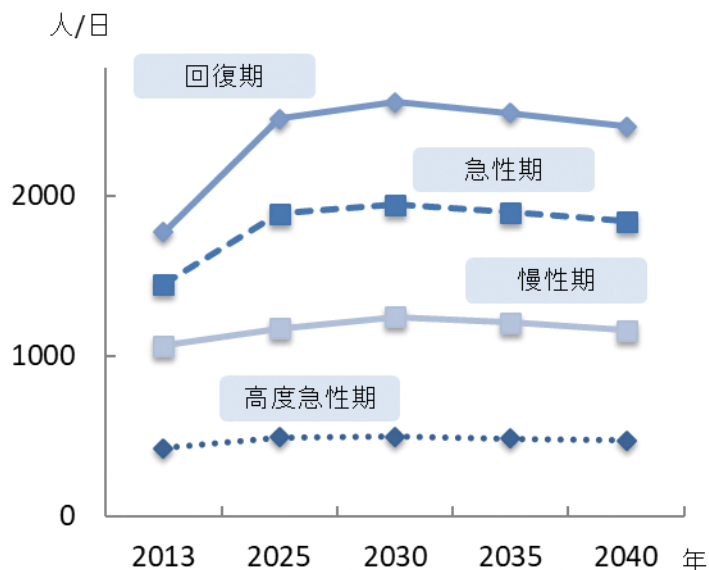
- 1 中河内二次医療圏の概要**
 - (1) 今後の医療需要の見込み
 - (2) 医療体制の概要
 - (3) 病床機能分化の状況

- 2 将来のあるべき医療体制に向けて**
 - (1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能
 - (2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

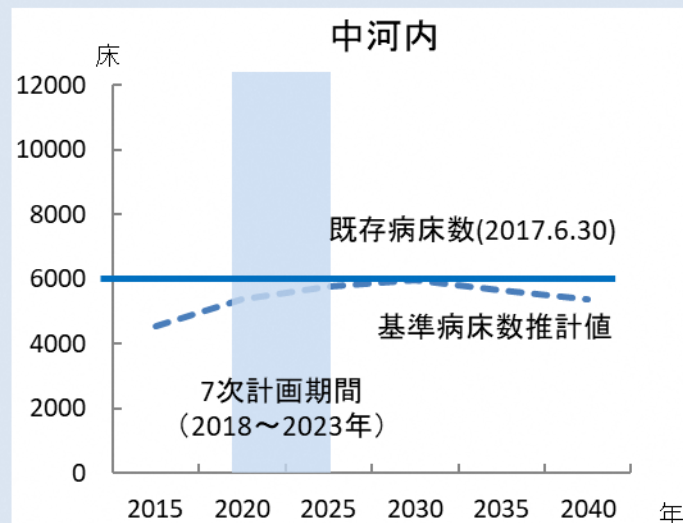
1 中河内二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

中河内二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要（特に、急性期と回復期）が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みにおいて、2030年に、既存病床数を上回る可能性あり

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	421	493	1.17	495	1.17	483	1.15	471	1.12
急性期	1,449	1,890	1.30	1,945	1.34	1,898	1.31	1,841	1.27
回復期	1,774	2,483	1.40	2,585	1.46	2,519	1.42	2,436	1.37
慢性期	1,062	1,173	1.10	1,246	1.17	1,210	1.14	1,159	1.09
合計	4,706	6,039	1.28	6,271	1.33	6,110	1.30	5,907	1.26

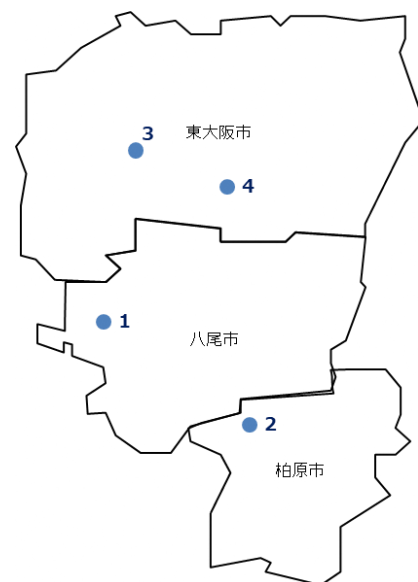
参照：第7次大阪府医療計画
一部改編

1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

中河内二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が3病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が1病院である

● 主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プラン にかかると補足調査対象	公的医療機関等2025プラン 対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院
1 八尾市	八尾市立病院	○			○		○			□				○			
2 柏原市	市立柏原病院	○					○			○							
3 東大阪市	市立東大阪医療センター	○			○	○				□		○	○				○
	社会医療法人若弘会若草第一病院		○		○	○			○	○							
合計		3	1	0	3	1	3	0	1	4	0	1	0	2	0	0	1



2021年10月末時点
【対象病院数31の内訳】
公立病院：3
公的病院：1
民間等病院：27

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。

※ 「周産期母子医療センター」の○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

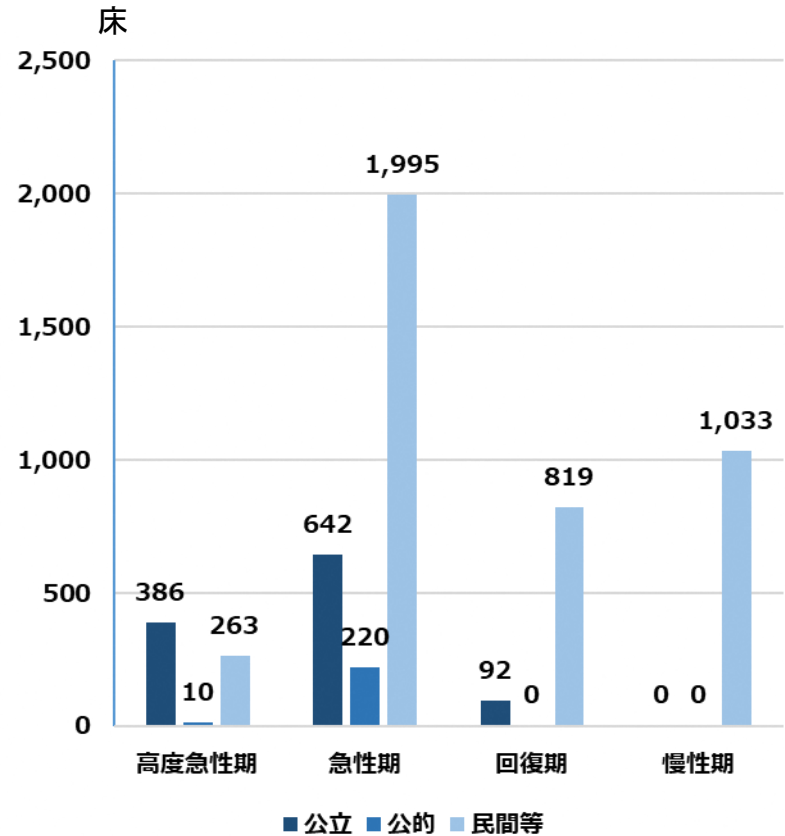
1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

病床数の割合は、公立病院21%、公的病院4%、民間等病院75%であり、回復期と慢性期の約95%を民間等病院が担っている

●病院プラン調査等提出

公立・公的・民間等	対象病院数	提出病院数	提出率
公立	3	3	100%
公的	1	1	100%
民間等	27	27	100%
合計	31	31	100%

●病床機能別病床数

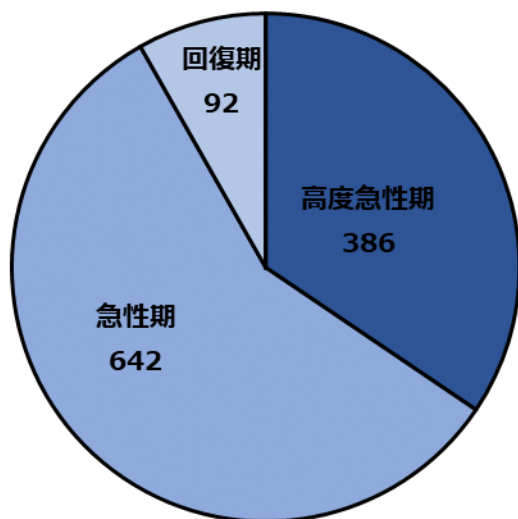


1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

公立・公的病院の病床機能は約93%が高度急性期と急性期で
民間等病院は急性期が49%、回復期20%、慢性期25%である

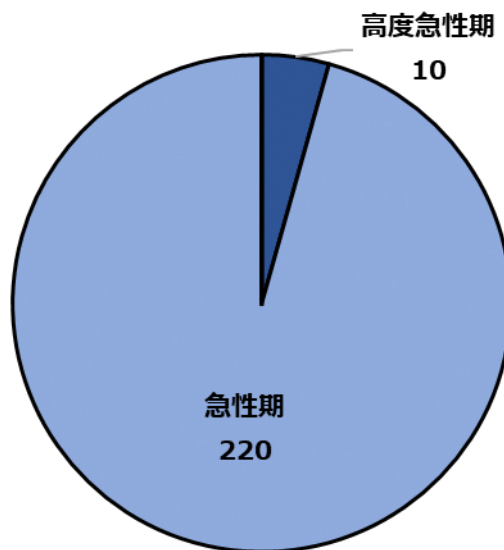
●公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出31病院(公立3、公的1、民間等27))

公立 (3)



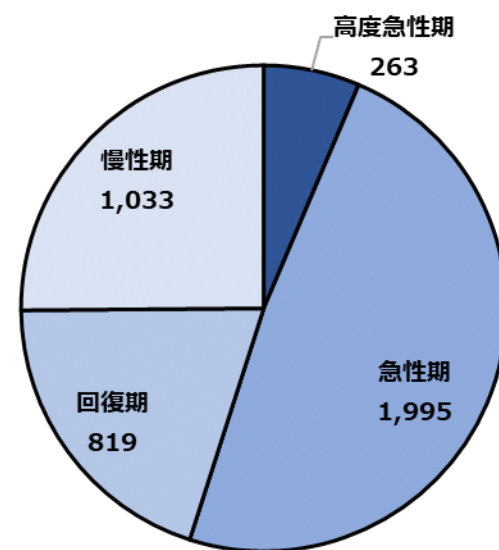
病床数 (合計)
1,120床

公的 (1)



病床数 (合計)
230床

民間等 (27)



病床数 (合計)
4,110床

1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要④(公民別病床機能)

全病床数5,460床の内訳は、約60%が東大阪市保健所管内、
約35%が八尾市保健所管内、約5%が藤井寺保健所管内

●【参考】保健所所管内別病床機能別割合

病床機能別病床数【令和3年】(東大阪市保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	222	273	25	0	520
公的	10	220	0	0	230
民間等	51	1,132	540	818	2,541
計	283	1,625	565	818	3,291

病床機能別病床数割合【令和3年】(東大阪市保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	42.7%	52.5%	4.8%	0.0%	100%
公的	4.3%	95.7%	0.0%	0.0%	100%
民間等	2.0%	44.5%	21.3%	32.2%	100%
計	8.6%	49.4%	17.2%	24.9%	100%

病床機能別病床数【令和3年】(八尾市保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	160	220	0	0	380
公的	0	0	0	0	0
民間等	212	803	279	215	1,509
計	372	1,023	279	215	1,889

病床機能別病床数割合【令和3年】(八尾市保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	42.1%	57.9%	0.0%	0.0%	100%
公的	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
民間等	14.0%	53.2%	18.5%	14.2%	100%
計	19.7%	54.2%	14.8%	11.4%	100%

病床機能別病床数【令和3年】(藤井寺保健所所管内)

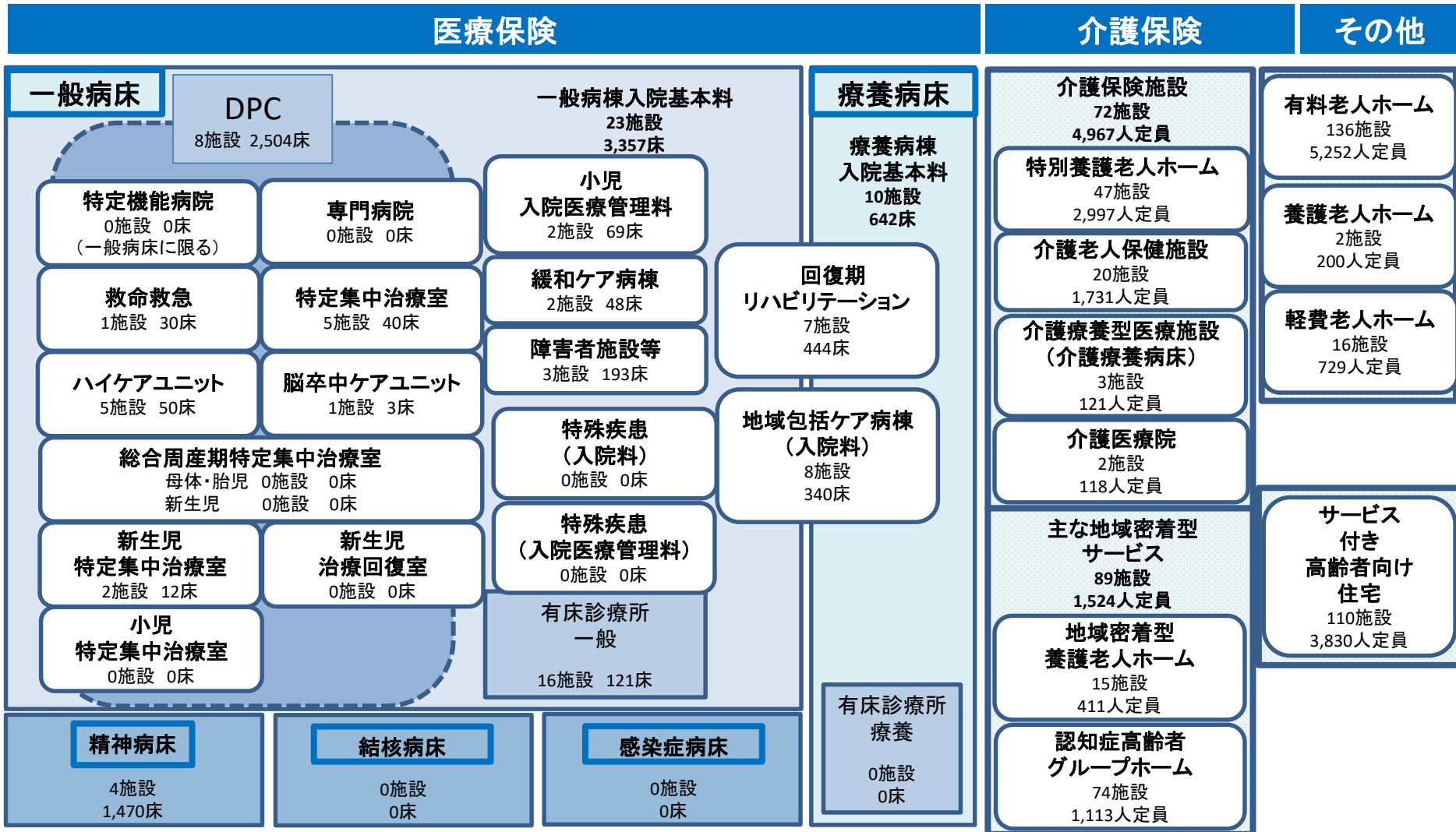
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	4	149	67	0	220
公的	0	0	0	0	0
民間等	0	60	0	0	60
計	4	209	67	0	280

病床機能別病床数割合【令和3年】(藤井寺保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	1.8%	67.7%	30.5%	0.0%	100%
公的	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
民間等	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
計	1.4%	74.6%	23.9%	0.0%	100%

1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑤(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、多くの機能・施設から構成されている



出典 「医療保険」病床機能報告(2020年7月1日時点)ただし、次項目は右記のとおり、精神病床・結核病床・感染症病床(大阪府健康医療部資料(2021年10月31日現在))

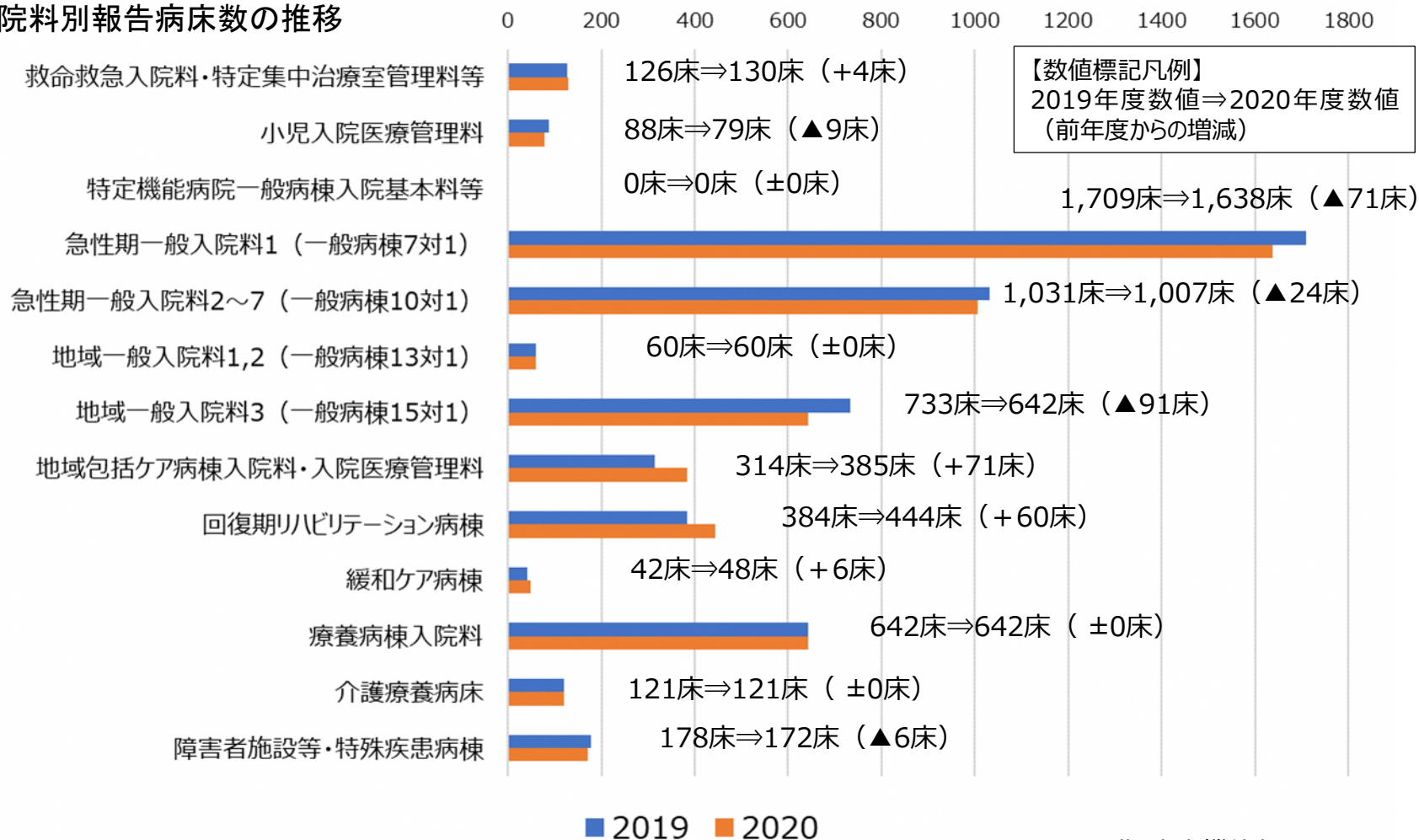
「介護保険・その他」大阪府福祉部資料(認知症高齢者グループホームの施設数は2021年4月1日時点、定員数は2020年3月31日時点、

有料老人ホームは2021年10月1日時点、サービス付き高齢者住宅は2021年4月30日時点、その他施設は2021年4月1日時点)

1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑥(入院料別の経年変化)

入院料別の報告病床数は前年度と比べ、主に急性期一般入院料1及び2～7、地域一般入院料3は減床し、地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料、回復期リハビリテーション病棟が増床している

●入院料別報告病床数の推移



① 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑦(転換補助金)

「病床転換等促進事業補助金」については、
中河内二次医療圏において7病院に対し、交付実績がある

病床転換等促進事業補助金（実績）

大阪府全体

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3	3	3	119	119	119
2016年	5	3	0	103	63	0
2017年	7	5	2	303	125	41
2018年	7	6	0	315	285	0
2019年	8	4	1	256	44	6
2020年	6	5	0	262	154	0
合計	36	26	6	1358	790	166

中河内

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	1	1	1	25	25	25
2016年	0	0	0	0	0	0
2017年	1	1	1	17	17	17
2018年	2	2	0	70	70	0
2019年	2	1	1	66	6	6
2020年	1	1	0	60	60	0
合計	7	6	3	238	178	48

1 中河内二次医療圏の概要 (3) 病床機能分化の状況

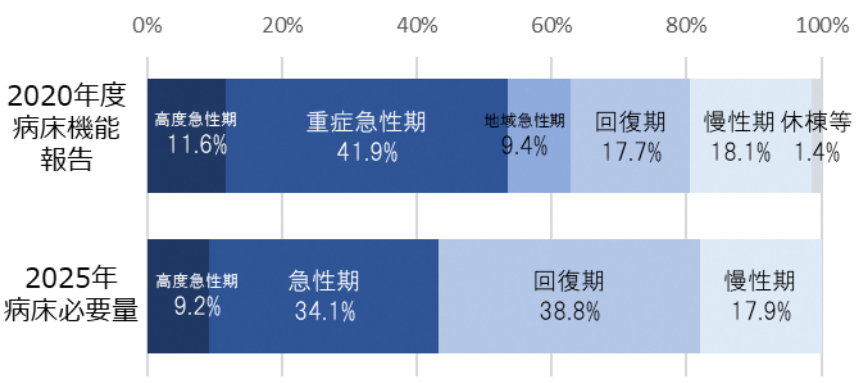
病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、
中河内二次医療圏で約11.7%程度同機能への転換が必要と推計

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期				回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床数の必要量	2013	562	1,857				1,971	1,155			5,545
病床機能報告	2014	163	3,527				427	1,375	0	487	5,979
病床機能報告	2015	490	3,387				508	1,257	32	224	5,898
病床機能報告	2016	460	3,453				624	1,051	14	276	5,878
病床機能報告	2017	682	3,401	2,245	17	1,139	657	1,124	14	2	5,880
病床機能報告	2018	622	3,146	2,124	155	867	770	1,172	74	0	5,784
病床機能報告	2019	624	3,054	2,496	0	558	814	1,044	67	14	5,617
病床機能報告	2020	660	2,916	2,383	0	533	1,010	1,029	77	5	5,697
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	526	1,941				2,209	1,021			5,697
病床数の必要量【オリジナル】	2025	657	2,424				2,759	1,275			7,115

● 病床機能報告 (2020年度) と病床数の必要量 (2025年) の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期				回復期	慢性期	休棟等
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期				
病床機能報告	2019	11.1%		44.5%	0.0%	10.0%	14.5%	18.6%	1.2%
病床機能報告	2020	11.6%		41.9%	0.0%	9.4%	17.7%	18.1%	1.4%
病床数の必要量	2025	9.2%	34.1%				38.8%	17.9%	



サブアキュート・ポスト アキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告 (地域急性期 + 回復期)

2019年度	24.5%
2020年度	27.1%

② 病床数の必要量 (回復期)

38.8%

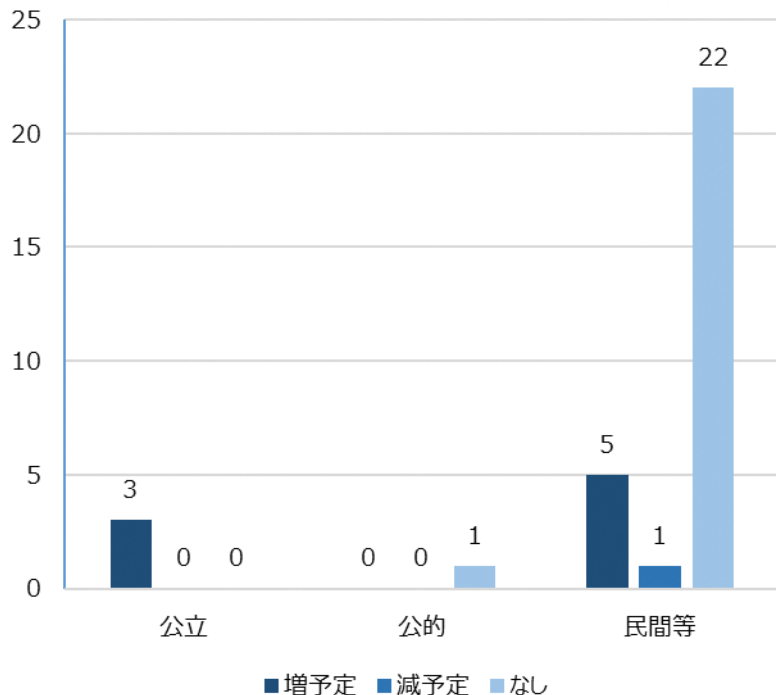
割合の差
11.7%
 (約700床)

2 将来のあるべき医療体制に向けて

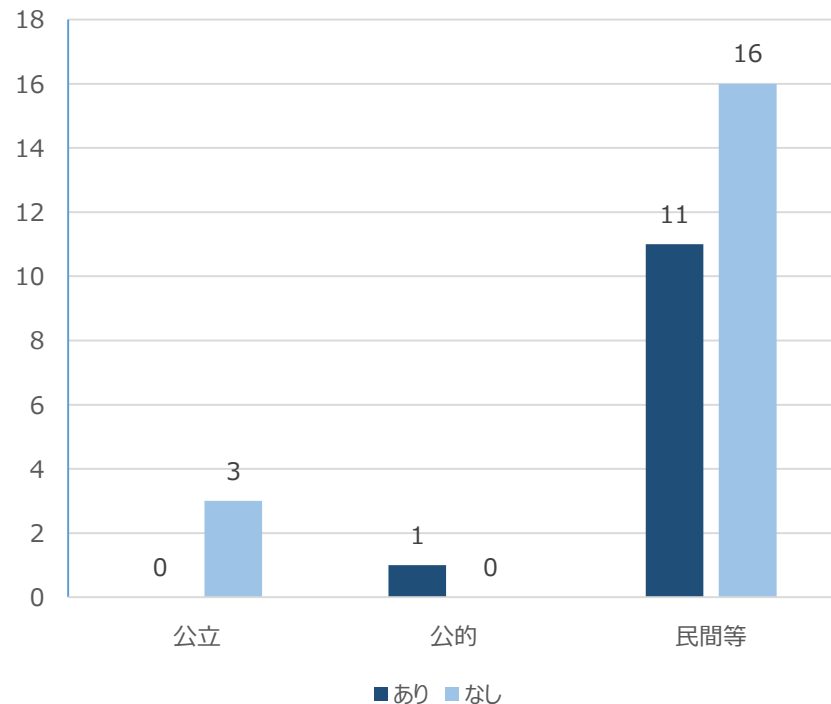
(1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能①

診療科の見直しは8病院が増加、1病院が減少を予定している
10年以内に病院の建て替えを12病院が予定している

● 2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



● 建て替えの検討の有無



2 将来のあるべき医療体制に向けて

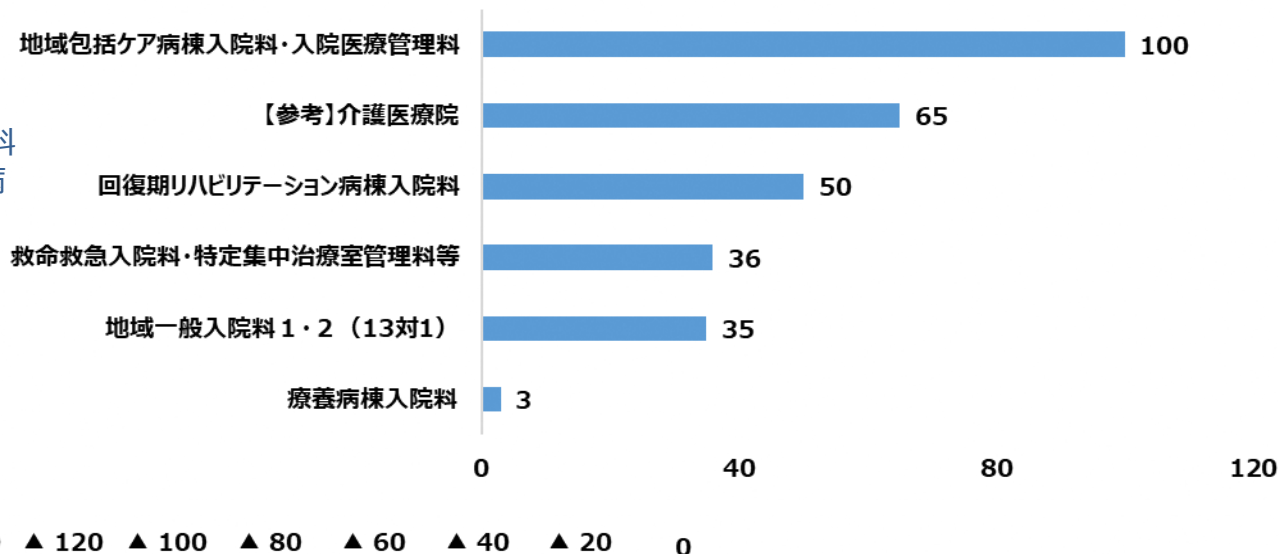
(1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能②

各病院が検討している病床機能等の変更は、「地域包括ケア病棟」や「回復期リハビリテーション病棟」が増床する方向となっている

●入院料別の検討状況※

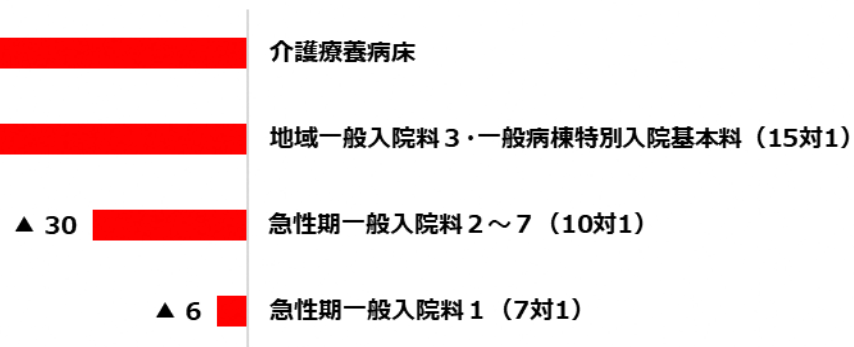
※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出



●公立・公的・民間別の検討状況※

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	53	▲ 53	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	30	▲ 154	150	▲ 60	▲ 34
計	83	▲ 207	150	▲ 60	▲ 34



2 将来のあるべき医療体制に向けて

(1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能③

回復期病床への転換の他、東大阪市保健所管内で高度急性期病床と介護医療院への転換が検討されている

●【参考】保健所管内別病床機能の検討状況※

病床機能別増減表（中河内：東大阪市保健所管内）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	53	▲ 53	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	30	▲ 90	80	▲ 27	▲ 7
計	83	▲ 143	80	▲ 27	▲ 7

病床機能別増減表（中河内：八尾市保健所管内）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	0	▲ 64	70	▲ 33	▲ 27
計	0	▲ 64	70	▲ 33	▲ 27

病床機能別増減表（中河内：藤井寺保健所管内）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0

※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している 入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出

2 将来のあるべき医療体制に向けて

(2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

- 将来に向けて「地域包括ケア病棟」や「回復期リハビリテーション病棟」の病床数は増加する方向にある
- 急性期病床から高度急性期病床への転換も一部検討されている

【参考】

平成30年度第2回病院連絡会での意見の概要

- 中河内二次医療圏の「高度急性期」と「急性期」の病床を維持し、圏域内での医療の完結について検討していく必要がある
- 回復期の病床機能の確保については、「高度急性期」と「急性期」の圏域内の必要量と、介護医療院への転換にともなう病床の減床を考慮して検討する必要がある

令和2年度中河内医療・病床懇話会での意見の概要

- 地域医療構想の推進については、今般の新型コロナウイルス感染症対応の経過や課題を明らかにして同時に検討する必要がある